

◆ 学 位	学 位 名	博士 (教育学) 京都女子大学	修士 (教育学) 京都女子大学
	取得方法	課程 平成 18 年取得	課程 平成 12 年取得
◆ 学 歴	大 学	京都府立大学文学部社会福祉学科 平成 10 年卒業	
	大 学 院	京都女子大学文学研究科博士前期課程 平成 12 年修了 京都女子大学文学研究科博士後期課程 平成 15 年単位取得退学	
◆ 学 内 職 務 (平成 29 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 図書委員 ▪ キャリア委員 		<ul style="list-style-type: none"> ▪ ▪
◆ 担当授業科目 (平成 29 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 認知心理学 ▪ 犯罪捜査の心理学 		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 心理学実験法 ▪ 心理学基礎実験 I・II
◆ 職務上の実績に関する事項 (資格, 免許, 特許, 等)			
▪			
◆ 専門研究分野		◆ キーワード	
認知心理学		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 子どもの記憶・語り ▪ フォールスメモリ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 司法面接 ▪ リアリティモニタリング
◆ 研究概要	①子どもから事実を聞き取るインタビュー方法 (司法面接) について ②リアリティモニタリングエラーとしてのフォールスメモリ生成のプロセスについて		
◆ 所属学会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 日本心理学会 ▪ 日本発達心理学会 ▪ 法と心理学会 		
◆ 主要著書 (5 件程度)			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所, 発表雑誌等, 発表学会の名称
▪			
◆ 主要論文 (5 件程度)			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所, 発表雑誌等, 発表学会の名称
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 家庭裁判所における子どもの心情・意向調査への司法面接の活用 	単	平成 28 年 9 月 25 日	『四天王寺大学紀要』第 62 号
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 心理学における子どもの証言研究 - 大人と子どものより良いコミュニケーションを目指して - 	単	平成 23 年 12 月 30 日	金剛出版『子どもの虐待とネグレクト』13 巻 3 号
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 子どもへの事実確認面接 - 司法面接を使った 3 歳児への面接事例より: 量的分析の報告 - 	単	平成 21 年 3 月	『四天王寺大学紀要』第 47 号
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 子どもへのインタビュー - 虐待事実の識別技法として - 	単	平成 19 年 3 月 25 日	『四天王寺国際仏教大学紀要』第 44 号

◆ その他（5件程度）			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所, 発表雑誌等, 発表学会の名称
<ul style="list-style-type: none"> 「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と提供」 	共	平成 27～30 年度	JST/RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域 研究開発プロジェクト（研究代表者：仲真紀子）内 グループリーダー
<ul style="list-style-type: none"> 多専門・多職種連携による司法面接の展開—通達からの1年を振り返り, 今後の展開を考える— 	共	平成 28 年 10 月 16 日	第 17 回法と心理学会（立命館大学）ワークショップ企画（羽瀨由子氏・赤嶺亜紀氏・安田裕子氏・仲 真紀子氏と共同企画）
<ul style="list-style-type: none"> 司法面接における子どもの語り—面接者の働きかけが子どもの語りに及ぼす影響について— 	単	平成 28 年 10 月 15 日	第 17 回法と心理学会（立命館大学）ポスター発表
<ul style="list-style-type: none"> Interviewing children—from a viewpoint of NICHD investigative interview protocol 	単	平成 28 年 7 月 29 日	“How to overcome the language barriers—When a vulnerable people in terms of communication encounter an incident or an accident.” ICP2016（pacifico Yokohama）テーマセッション話題提供
<ul style="list-style-type: none"> 司法面接後の再認課題における判断—6～7 歳児と大学生におけ比較— 	単	平成 28 年 4 月 29 日	第 27 回日本発達心理学会（北海道大学）ポスター発表